

第6章 連立方程式モデル

問1 PowerPoint スライドに記載されているモデルA~Dについて、識別条件をあてはめてみよう。

モデル名	A	B	判定
モデルA			
モデルB			
モデルC			
モデルD			

問2[Rによる実習] 日本の製造業の需給をあらわすモデルとして、次のような連立方程式モデルを考える。

$$\text{供給関数: } Q_t = a + bP_t + eE_t + u_t$$

$$\text{需要関数: } Q_t = c + dP_t + fA_t + v_t$$

Q_t : 製造業 GDP の対数値 (実質、1995 年価格)

P_t : 製造業 GDP デフレーター (1995 年基準)

E_t : 電力消費量 (kWh)

A_t : 従属人口比率

このモデルを分析するために、データ(2sls_2.csv)を、講義用 HP からダウンロードし、保存しておくこと。その上で、2sls.R のプログラムを修正し実行してみよう。(ファイル名は **2sls_2.R** としておく)

ただし、このプログラムを実行する前には、systemfit パッケージを読み込む必要があります。